

オーディオ実験室収載

サブシステムの再構成(14) (HP 収載)

1. はじめに

前報(13)に引き続き、サブシステムの入替後の試聴を行います。

2. サブシステムの再構成の内容

前報(11)から前報(13)では、アンプを PX25 シングルに固定し、スピーカーを入れ替えて試聴を行いました。今回は、スピーカーを AXIOM80 に固定し、駆動アンプを入れ替えて試聴を行います。

駆動アンプは、IPC AM1029 (KT66 シングル)、Langivin 6V6pp および Rogers Cadet III です。

試聴音源は STAGE+から下記を選定しました。

バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ

シュロモ・ミンツ(ヴァイオリン)

バッハ Goldberg 変奏曲

ラン・ラン(ピアノ)

シューベルト ピアノ 5 重奏曲「鱒」

リサ・パティアシュブビリ(ヴァイオリン)他

3. サブシステムの再構成の試聴結果

ながらく使用していませんでしたので動作チェックから始めましたが、IPC AM1029 は問題なく正常動作しましたが、ゲインは不足気味です。Langivin 6V6pp は片チャンネルの SP 出力の接触不良がありましたが、これを直して正常動作しました。接触不良を修理したことだからか、以前にあった小さなハム音も解消しました。Rogers Cadet III は L チャンネル入力端子の接触不良を直し、正常動作しました。

IPC AM1029 では、ミンツのバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、ややゲイン不足ながら透明度のたかい音を聴かせてくれます。

バッハの Goldberg 変奏曲は、AXIOM80 のエッジの効き方は和らげられ、ソフトな音で楚々とした鳴り方です。

シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」は、弦のエッジやピアノの打鍵はやわらぎ、こぢんまりとまとまった表現ですが、コントラバスは明瞭さを欠きます。

Langivin 6V6pp では、ミンツのバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、ゲインも少しばかり小さいのですが、ヴォリュームを上げると、エッジの効

いたボウイングのディテールの再現が得られます。

バッハの Goldberg 変奏曲は、打鍵と余韻のバランスも良く、高音の美しさが際立ちます。

シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」は、ヴォリュームを上げるとスケール感もあり、レンジ感もバランスも良く、コントラバスの量感もあります。

Rogers Cadet III では、ミンツのバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、力強いボウイングの表現がありますが、弦の滑らかさは Langivin 6V6pp より後退します。

バッハの Goldberg 変奏曲は、打鍵の力強さがありますが、ピアノの響きの美しさは Langivin 6V6pp より後退します。

シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」は、コントラバスやピアノの力強さができますが、弦の滑らかさは Langivin 6V6pp より後退します。

4. まとめ

サブシステムの入替え後のアンプの試聴を行いました。不具合のあったところは修正し、それぞれの特徴が把握できました。今後、スピーカーアキュライザーの適用などを検討していきます。

以上